

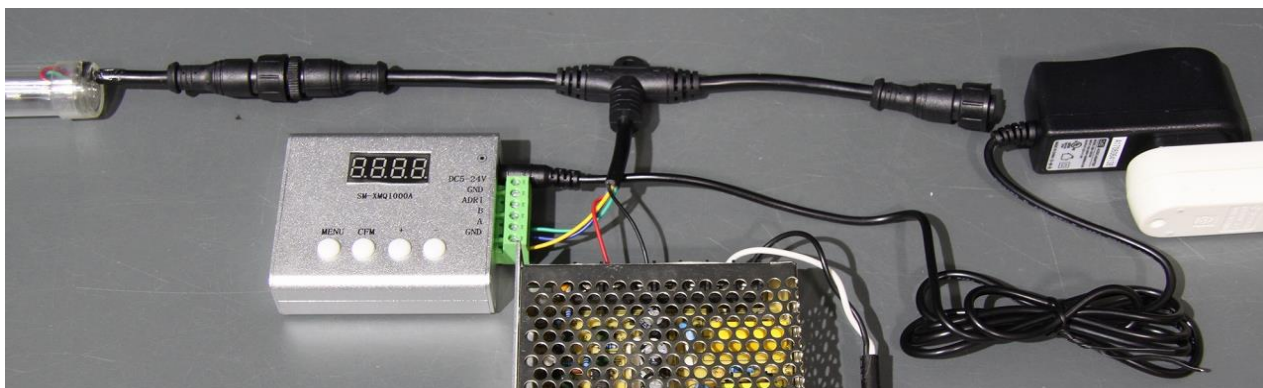
0. はじめに

このマニュアルでは、DMX対応スノーフォールR2用のアドレスライタを用いてスノーフォールのDMXアドレスを設定する方法をご案内いたします。

1. 用意するもの

- ・ DMX対応スノーフォールR2本体
- ・ DMX対応スノーフォールR2用アドレスライタ
- ・ アドレスライタ用AC/DCアダプタ (5V)
- ・ アドレスライタ接続用T型ケーブル (5芯先バラ+灯体接続5芯オスコネクタ+灯体接続5芯メスコネクタ)
- ・ DC12V電源 (スノーフォール本体への電源供給用)

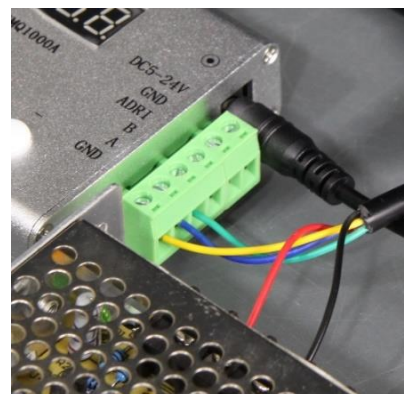
2. 機器の接続と準備



※ 機器の接続・取り外しは電源未投入の状態で行ってください。

2-1. アドレスライタ接続用T型ケーブルの5芯先バラ線を以下の端子に接続します。

- 緑の線 . . . アドレスライタ本体の B端子
- 青の線 . . . アドレスライタ本体の A端子
- 黄の線 . . . アドレスライタ本体の GND端子
- 赤の線 . . . DC電源の 12V+出力
- 黒の線 . . . DC電源の 12V-出力



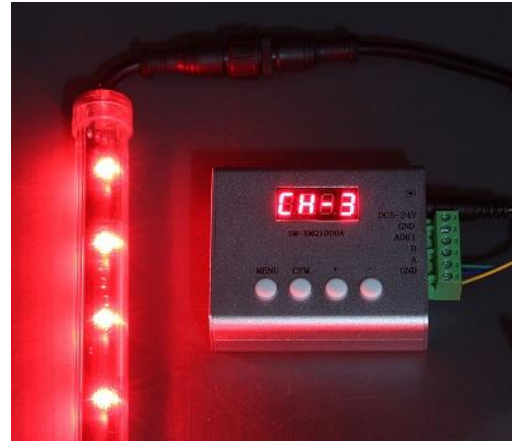
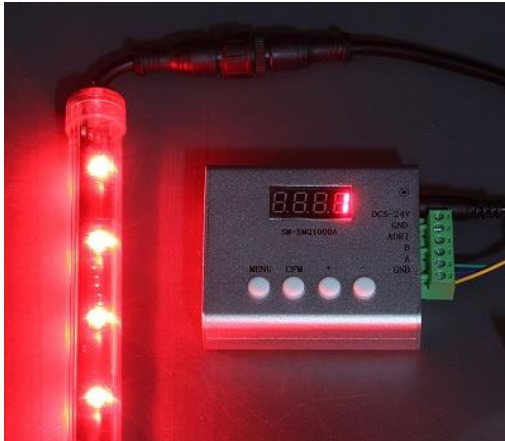
2-2. アドレスライタ接続用T型ケーブルのオスコネクタに DMX対応スノーフォールR2本体のメスコネクタを接続します。

※ DMX対応スノーフォールR2用信号分岐T型ケーブルを使用する場合は、信号分岐T型ケーブルのT字下方向のオスコネクタとスノーフォールR2本体のメスコネクタを接続し、T字横方向のオスコネクタとアドレスライタ接続用T型ケーブルのメスコネクタを接続します。

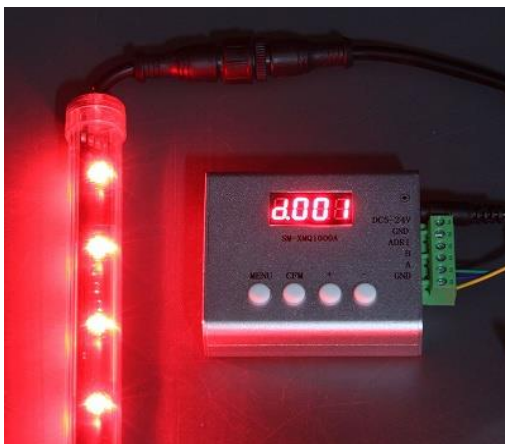
2-3. アドレスライタ本体の電源入力DCジャックにアドレスライタ用AC/DCアダプタのDCプラグを接続し、ACプラグをAC100Vコンセントに接続してアドレスライタに電源を投入します。DC12V電源にも電源を投入します。

3. DMXスタートアドレス設定手順

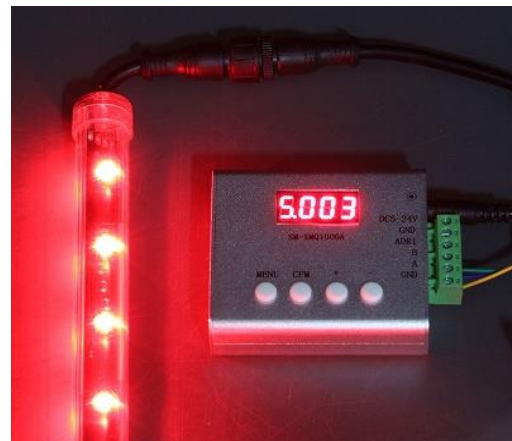
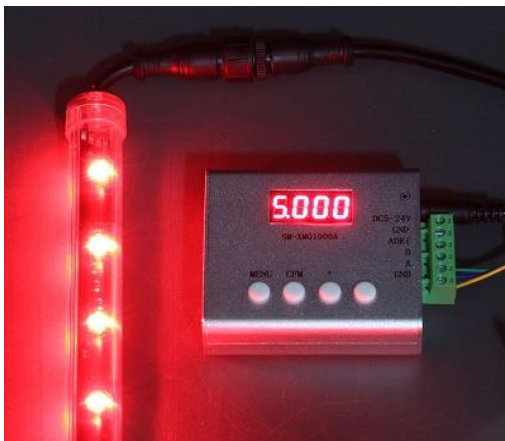
- 3-1. アドレスライタに電源を投入すると内蔵プログラム選択モードで起動します。
液晶画面にはプログラム番号が表示されます。（初期値は「1」でスノーボール全体が赤く光ります）
この状態で一度 [MENU]ボタン を押下すると液晶表示が「CH-3」に変わります。



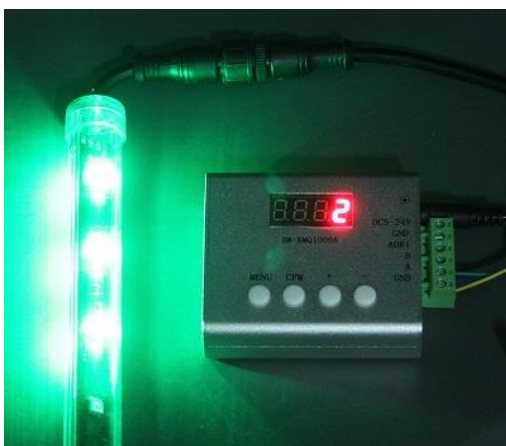
- 3-2. もう一度 [MENU]ボタン を押下すると液晶表示が「d.***」に変わります。
(*は数値。初期値は「d.001」)
「d.」の後の3桁の数値が DMXスタートアドレスになります。
[+] または [-] ボタンを押下して設定したいスタートアドレスを選択します。



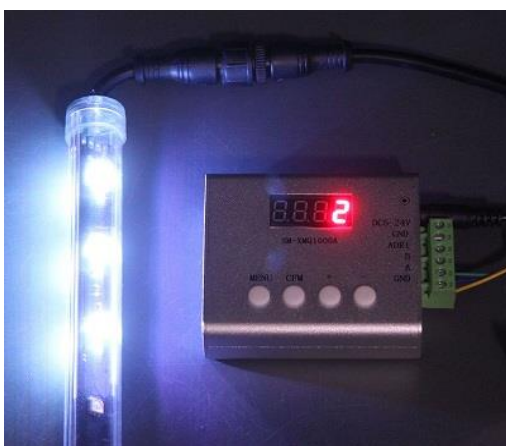
- 3-3. アドレスを選択したら [MENU]ボタン を押下します。
液晶表示が「S.***」に変わります。（*は数値。初期値は「S.000」）
[+] または [-] ボタンを押下して「S.003」に変更します。



- 3-4. [CFM]ボタンを押下します。
アドレスライタの液晶表示が「3」になった後、「1」→「2」→「3」と変わっていきます。
スノーフォール本体のLEDは、[CFM]ボタンを押下した時点で全消灯し、
「2」の表示の時に先頭アドレスのLEDのみが緑色で点灯します。
アドレスライタの液晶表示が「S.003」に戻ったらDMXアドレスの設定は完了です。



- 3-5. 以上の手順でDMXアドレスの設定は完了していますので、アドレスライタの電源を落とし、スノーフォール本体も取り外して構いません。
なお、ここまでの手順を終えた後に、スノーフォールを接続したまま再度 [MENU]ボタンを押下すると、アドレスライタの液晶表示が「3」→「1」→「2」→「3」と変わっていき、「2」の表示の時に先頭アドレスのLEDが白色で点灯しますが、DMXアドレスは3-4. までの手順で設定した値が保持されます。その後液晶表示は「5.512」となり、ポーレートとノード数を設定するモードとなりますが、DMXアドレスを設定する際には初期値（「5.512」）のままで変更の必要はありません。ここでさらに [MENU]ボタンを押下すると内蔵点灯プログラムの選択モードに戻ります。



4. 内蔵プログラムの選択

- 4-1. このアドレスライタには組み込みのプログラムが内蔵されており、スノーフォール本体を繋いだ状態で内蔵プログラムによる点灯が可能です。

アドレスライタに電源を投入すると内蔵プログラム選択モードで起動します。
液晶画面にはプログラム番号が表示されます。（初期値は「1」でスノーフォール全体が赤く光ります）
この状態で [CFM] ボタンを押下すると液晶表示がカウントアップされ、次の内蔵プログラムが選択されます。

内蔵プログラムには以下のパターンがあります。

1. 赤全灯
 2. 緑全灯
 3. 青全灯
 4. 白(RGB)全灯 または 3色ステップ(赤-緑-青) ※ロットにより異なります
 5. 7色速いステップ (赤-緑-青-白-シアン-イエロー-マゼンタ)
 6. 7色ゆっくりステップ (最初と最後に少しフェードしながらステップ色変化、色の順序は5と同じ)
 7. 7色From-to-end (先頭から終端に光をためながら点灯。それを7色で繰り返す)
 8. 7色End-From (終端から先頭に向けて光が流れる。それを7色で繰り返す)
 9. カラーグラデーション
- LOOP. 1~9をループ実行

